

## イージス・アショアに関する知事の質問に対する防衛省の説明

秋田県総務部総務課

- 1 日 時  
平成30年8月27日（月） 10:00～10:50
- 2 場 所  
秋田県庁特別会議室
- 3 説明者  
深澤審議官、伊藤東北防衛局長 ほか
- 4 応対者  
佐竹知事、堀井副知事、名越総務部長
- 5 発言内容

（深澤審議官）

説明資料に基づき説明

（知 事）

ありがとうございました。いろいろと少しずつ、細かい点がイメージだけでもわかってきました。住民の皆さんからすると、この全体の施設の構想、これが出たことによって、多分ルーマニアの位置、逆にここの面で、さらに住民の皆さんの反発が強まるというのがあるんですね。というのは、今までイージスの場合、レーダーシステム、あれが中心に写真が出ている。VLS、あそこの部分はあまり出ませんので。ハワイの航空写真のあれは150メートル四方なんですね。ですから、あれが全部とそういう風に理解している住民が多いと思うんです。

だから、これで見ますとね、ちょうどルーマニア、ちょうど1平方キロの全体を使って、あのVLSを3基据え置くような話でありまして、いずれあそこの今の基地がまあそう広くはありませんので、ほぼあれ全部を使ってということになる。そうしますと、レーダーなのかVLSなのかは別として、いずれ、その全体を凝縮して、どこかに保安距離がとれるというより、何らかの施設が東側のほうに近づくという可能性も多い。まあ、逆に言えば、あそこをいっぱい使って使う。そういう風な状況で整備せざるを得ないという。その際に保安距離をどうとるか、これが非常に難しい1つの課題であろうと思います。

例えばですね、最初から言いますけれども、仮に不適との結論に至ればということですが、この不適というのは、地質あるいは電波この全てね、お宅の方の不都合なんで

す。ですから、この不適というののもう1つ、仮にたぶん今これをですね、調査をさらに延ばすといっても、国の会計年度もございますので、これは強行かどうかは別にして調査はスタートせざるを得ないと思います。我々が何と言っても。ただ、その私どもはですね、住宅地あるいは学校、市街地に近いから不適だと。住宅・学校・市街地に近いことについてのこれに対する安全策、この調査をやるべきだと思います。おたくの方の都合だけの調査でなくて、こっちの都合の調査も入れるべきだと思います。これを私は前から言っていますが、最低でも700～800メートル以上、できれば1キロ程度、これは、隊舎とか倉庫は別にして、レーダー、VLS、補助弾頭の格納庫、このくらいは保安距離をとる。もし物理的にとれないとすれば、代替措置がどういうものがあるのか、そういう調査を、後ろの方に一定の、書いてはありますが、こういう調査を含めて、その結果、適・不適をですね。地質は、あの辺は地層、調査しなくてもその状況はわかるんですね。あそこはね、超軟弱地とは出ないと思います。電波の方も、一定の地上計算で今までやっていますので、そう不適は出ないと思います。

ただ、やはり、それはあくまでもお宅の方の適・不適であって、我々の方の住民からすると適・不適というのは、一番なのは近いからなんです。学校、住宅、この距離をどうとるのか。そもそも論を言いつつ、必要かどうかの議論を別にして、その議論に行っちゃうとまた別になります。ですから、住民の皆さんの中にはイージスでの防衛強化、これは賛成の人もいるんですよ。賛成でも、自分の庭先、これは諸外国も含めて、まあ、日本の国は狭いから致し方ないと言えそうですけれども。普通ね、例えばロシア、あそこは広いですけれども。いずれにしても、こんなに近いところに恒久的なミサイル基地はないんですよ。はじめてなんです。ですから、これはですね相当ね、そこのところをどうするのか。まあ、地元の住民の皆さんがそれでもいいかどうかは別にしても、最低限どういう風にするのかという、そういう方法をやはり調査に含めるべきだと思うんです。その調査の結果、今度は我々が検証できるんです。地質、電波は我々が検証しようがないんです。

それから、次。VLS3基、これ、ルーマニアは1モジュール8セル、これを3基で24発。これはイージス艦の場合、一箇所全部。これはどういうことで分散するんですか。どういう理由で分散、イージス艦は1箇所。

(審議官)

集中的にやるのか、分散的にやるのかは、これからの基本検討の中で行ってまいりたいと考えており、現時点でこれをどうするのかは決まっているものではありません。

(知事)

たぶん2つの要素があると思うんですね、分散は。1つは、警備上の問題。それから、イージス艦の場合、走りながら、走行しながら、海ですから、船が動きながら撃ちますので撃つ場所が随時変わってくるんです。これ集中だと連射すると重なるでしょ。こういう風に。これ、地上の場合、全部まとめて連射する場合に、そこのレーダーが1発ずつ捉えにくいという。ですから2つあるんです。イージス艦の場合と違って。警備の問

題。そうするとなかなかこれを全部24発、一箇所に置くというのはシステム上無理がある。ですから、分散しますと。いずれ、レーダーも含めてさっき言ったとおりVLSの保安距離をどう保つか。住民の皆さんにこの地図出てますか、見えますか。そうすると、調査によってですけど海岸ぞいに全部、道路しかないけど。そうすると、いろんな無理が生じる可能性が出てくると思います。あと、住宅地・学校に近いところの保安距離の関係がありますので、そこは調査に委ねるということですので、いずれこの緩衝地帯これをどうとるのか。これがですね、単純なんですよ。家から、近すぎるという。これをどう解決するかということなんです。

それから、このあいだの住民説明会で、前はレーダーの照射方面が日本海を中心、西に向くと。あれが東の方を向くと、場合によっては、これどういう意味ですか？

(審議官)

これまでの説明の中で、基本的には日本海の方に照射をするという説明をしておりますが、前回の住民説明会の中では、場合によってはどこで迎撃するかということによって、必ずしも日本海側でない方も照射する可能性もあるということです。

(知事)

逆に言えば、このSM3はどちらかというとミッドフェイズ。日本の上空で、秋田の上空を越えてから、まだミッドフェイズということは、日本国内に着弾するということは物理的にないのではないかと。

(審議官)

最近、北朝鮮の弾道ミサイル技術が向上し、すごく高い高度で打ち上げる場合がありますので、必ずしもですね、日本に落ちないということではありません。

(知事)

でも日本国内でどういう風になるか。例えば、北朝鮮から三沢、あの距離の中で、ロフテッドの頂点が日本の方にこういう風にはならないでしょ。頂点は中間じゃないですか。軌道は、地球の自転とその下の鉛直線上の地球の中心の鉛直線上の密度と係数、あと大気圏に入ってくる風、これによって、軌道計算できます。ロフテッド軌道の頂点は成層圏ですね、そうするとこうはならないのでは。頂点が日本海上空で、ロフテッド軌道の日本海上空では、ここまで上げるとするとね、こういうふうに撃って、こう落とすしかないでしょ。これ逆に言えば、もしロフテッド軌道でそっちの方に撃つとすると、ターミナルフェイズ、そうするとPAC-3は成層圏で命中率はほぼないと同じじゃないかと。要するに、苦しいでしょうけど、あとは日本の上空を越えていくミサイル、これを一定程度捕捉して、米軍にデータリンクする目的があるんじゃないですか。

(審議官)

そこはあくまでも、日本を狙った弾をですね、対処するためのものであって、知事が

仰るようになりますね、なかなかこういったケースはないのではということですが、全くないわけではないということで、万が一に備えて対応する必要がございますので、その可能性もありますよという意味で、住民説明会では説明したところです。

(知 事)

ただ、可及的速やかにということですが延びるでしょう。23年に配置できますか。

(審議官)

米国政府から、契約してから配備するまでに6年間という説明があったのは事実でございます。ただ、可及的速やかに配備するためにも今後米国政府と調整しながら、できるだけ早くできるように考えております。

(知 事)

北朝鮮の最初、あの時は緊張、非常に緊張が走った。もしね、北朝鮮の状況がここ1、2年で変わればどうなるんですか。

(審議官)

確かに今、外交交渉が行われているわけですから、北朝鮮の具体的な行動等をしっかりと見極めていく必要があるという風に思っておりますけれども、同時に日本を射程に収める弾道ミサイルが数百発、現にあるわけでありますので、こういったことにも平素から備えるというのが私たちの責務でありますから、イージス・アショアについても取り組んでまいりたいということです。

(知 事)

いずれ北朝鮮も含めて、日本周辺のすべての国に対するミサイル防衛網、そういう風に解釈した方が説明しやすいんじゃないですか。7年後ですよ。北朝鮮が、これは望むものではないけれど、トランプ政権が逆にこの1年の間に実力措置をやれば間に合わないでしょ。ですから、北朝鮮の状況だけで、むしろ、皆さんよりも政府の政治問題でしょうけど。あまり北朝鮮と言うとね、そこで非常に、そもそも論のところ、私あまり言いません。ただ、私の捉え方は北朝鮮というよりも、日本全体の弾道ミサイル防衛網の整備という風に捉えた方が自然なんですよ。そこでね、北朝鮮をあまり言うと、段々と嘘くさくなってしまふ。

それと、もうひとつ。あまり内陸部、東側にね、照射するようなことは、百に一つあるかもしれない。ただ、どんな軌道でも物理的にまずゼロに近いんですね。打ち落とす、まあ三沢とか盛岡に狙ったものが、打ち落とすことができなかつたら終わりです。でも最後まで追尾するというのは有り得ると。百歩譲って。ただ、それだけで両面に付けるとすると、もっと広い範囲のレーダー監視ということに、そういう風に捉えた方がいいと思うんですよ。

あと、3箇所は何発というのはまだでしょ。VLSのモジュール数。

(審議官)

3箇所の8ですので、3×8で24というところですけども。

(知事)

これはあれですか。運用開始時において、24発全部入るんですか。

(審議官)

そこはなかなか言えないところで・・・。

(知事)

それでね、別にこれ、だからといってそれでやってくださいとか、それをもって良しとするというわけではありませんよ。仮に数発だったら自己防衛できないでしょ。最低限ね、普通は大都市とイージスの基地、ここがやられてしまえば終わりですから、ここを守るための弾頭。普通は24発であれば、自己防衛及び周辺防衛に8発、残りが16発、これがルールです。それがね、最初から自己防衛用が1発しかないとかね、ゼロってなったら、これではね、皆さん方も困るでしょ。そこで運用する自衛官の人達、自分のところを一番守るべきだと、最初から24発まず入れなきゃ意味ないですよ。

(審議官)

そこは遺漏のないようにしっかりと対応していきたい。

(知事)

でも、それは秘密にする必要はないですよ。フル装填って言った方が抑止力が出てくるでしょ。予備入れれば48発、全部で100発買えば良い。そのぐらいでないと、仮に良しとするものではないけれど、そうじゃないと地元対策、地元警備は意味がないと思う。単なるデータ、あるいは柵、土塁を築いても、これはテロです。直接攻撃は、自分で打ち落とすしかないんですよ。そうすると近接、弾道などから、自分の所は自分で守ると。今の時代すぐ分かるんで、全部オープンにして、財務省でしょう。あのね、大臣に少し言った方が良いですよ。そうじゃないと、今いろんな人たちとこうやって。いづれ言えることは、こちらの都合の適・不適、これを保安距離、あるいは緩衝地帯、この調査を、これは私の方から。これがあるとすると、他の調査も「止めろ」と言ってもやるでしょうから、少なくとも、強行するのかどうかは別にして、調査を、それがないとね。

(審議官)

そこはですね、基本的な施設配置案の検討の中で、周囲に影響を与えない十分な保安距離が確保できることが当然なんですけれど、それに加えて、住民の方々に心理的な負担の軽減をするために、できる限り、こう離したりとか・・・。

(知 事)

心理的じゃなくて物理的ですよ。

(審議官)

はい、そういったこともこの検討の中で十分にやっていきたいと思っております。

(知 事)

それと、イージスの話が、急に山口、秋田。もう少し上の段階、大臣、そこらへんでもう一回、最初から候補地から外せと言ってもできないでしょうけれども、もう一回全体構想、どういう風に地元の理解を得るのか、今のままでは地元は理解しませんよ。地元の理解がないということは、我々行政も理解するとは言えないです。ですから、もう一回扱いそのものを。非常に不釣り合いです。佐賀のオスプレイ、あれは平時の運航の騒音あるいは事故対策。でも、大臣が行って、年間5億円、20年間で100億も着陸料、でも、有事の際はあのヘリは全部いなくなる。有事の際は、あそこから、ヘリは沖縄あるいは韓国、飛ぶんです。有事の際に全くあそこは狙われないでしょう、オスプレイいなくなるんだから。そこに着陸料5億円を20年間で100億ですよ。それだったらいくらでも埋め立てでもして、1,000億かけても良いでしょ。そこを言っているんですよ。物理的に今のところに保安距離をとろうとすると、あの敷地だけではどうしようもないと思う。なにかもう少し大胆な住民の皆さんが納得するような、そういう保安距離のとり方。あのままで、いくらいろんな目隠しをしても、150m、200m先に発射装置があると、総論賛成の人達も反対せざるを得ないんですよ。皆さん方の家族だって、特に女性の方、そう簡単に賛成する立場じゃない。そこをすぐ理解というのはしないと思う。ですから、要するに扱い方。あと、もう一つ、ここが適地か不適地か。他の国有地、これも逆にレーダーとVLS、まさか何十キロ何百キロではなくても少し離すことは出来るんですから、全く無人の人のいないところに分散するという、そういう方法だってあるでしょ。

(審議官)

なかなか運用をしたり、警備のことを考えたときに・・・。

(知 事)

警備、かければ良いじゃない。地元の住民の不安が、警備でも経費でも金でもかければ良いじゃない。それを節約するんで、それを地元到我慢しろなんて、地元は納得しませんよ。ですからそこは、なんかね、秋田と山口、安上がりにしようという風に聞こえる。もうここまで来たら1兆円かけても良いんじゃない。その位やらないと、中途半端にやっても、地元は、特に周辺地域、いろんな声があります。ただ、先程言ったとおり、絶対的に、そもそも論で必要があるのかないのかの議論、これ私はしません。もともと

近い場所にやることの無理、この無理をどう解決するか、これは保安距離を取るということ。地元で万が一の場合に被害を及ぼさない具体的な物資、この大きな視点、この二つをしっかりと踏まないと、小さな積み重ねで部分的に説明しても、なかなか前には進まないと思います。

(審議官)

今後、各種調査をやってそれを反映する形ですね、基本的な施設の配置案、その過程で、今知事が言われたようなこともしっかり入れ込んで、検討して、住民の皆さんの心理的な負担を軽減するような観点というのも取り込んで調査させていただいて、その結果をご説明させていただくということだと考えています。

(知事)

いずれ物理的な工事は、来年度はしないとすることですけれども。いずれ調査、これはやるのだろうが、他の国有地、この調査をしっかりとやってその情報を我々に提供してくださいよ。

(審議官)

そこを所管する省庁にも協力いただきながら、しっかり検討させていただきたいと思っています。

(知事)

例えば、国有地があった、一定の、ただ少し狭い。隣が民有地で、人が住んでいない原野だ、買ったらいじゃない全部、そういうところ。そういう方法だってあるでしょ。国有地の隣接地で、例えば、相当広い民有地がある。全く住家がない。買ったらい。今なら直ぐ売りますよ。農村部は。そういう面で、もう少し広げて国有地を検討する。例えば300mの幅しかありません。でも、こっちに1000mの幅の民有地があったと。何も使っていない、誰も住んでない、あるいは田んぼだと。補償して買っていいんじゃないか。そこはそのくらいやって、一番文句の出ないところにやった方が、早く進みますよ。

やっぱり、すぐそばに人がいるっていうことは、どんなことがあってもこれを納得させるには、相当の措置が必要だと思いますよ。しかも学校ですよ、すぐにゴルフ場もあり、民家もある。そこら辺は、やっぱり経済的に相当なマイナスの要素となる。現に経済的なマイナスが出ているんですよ。ですから、そこら辺を含めてもう一回、大臣、副大臣、政務官を含め根本的に検討してもらいたい。

調査は何としてもやるんでしょうけども、物理的な工事はそう簡単に進めてもらっては困ります。物理的な工事をやるっていうことは、もう配備するということですから。

(審議官)

先ほども申し上げましたように、造成のため経費というのは、31年度の概算要求に

計上しておりませんので、31年度の工事というものはありません。

(知 事)

もし、物理的な工事を強行するようなことがあったら、世間全体が反対運動になりますよ。

(審議官)

物理的な工事とは、造成工事とかそういったことですよ。

地質測量調査でボーリング調査などはさせていただきますけれども、これを配備するための造成工事については、31年度の予算を要求しておりませんので、それを実施することはないということです。

(知 事)

まあ、十分、周辺の図面を見て保安距離をどうとるのか。相当頭を柔らかくして、少し幅広に検討してください。

秋田の経済界から、沖合を埋めたらいいんじゃないかという案が出ているんです。あそこは遠浅ですから。だからといって地元がいいとかではなく、そういう案も出ているんですよ。自衛隊協力会の方からそういう話が出ているんですよ。自衛隊協力会、防衛協会の皆さんも、やはり人家のすぐ側ってというのは、同じ県内の中でも、そう簡単に納得するようお願いする立場は取れないと言っている。まあ、日本は狭いですから、欧米の様にそう簡単に場所があるわけではないが、だからこそ金をかけても保安距離をとる必要がある。

今ある場所だけを使って安くあげようという考えが、地元の反発を買うんですよ。地元で安心感を与えるということは、最大限の物理的な距離の問題が絶対です。前にも言ったとおり、RPG、カールグスタフは7、8百メートル。それは絶対的に。そうになると、これ以上の議論も、まさか戦車持ってくるわけではないでしょうから、そういう具体的に、これだけの距離を離せばそういうものは絶対防げます。そういうことをしっかりやらないと地元の人には納得しません。反対があのように出してしまうと、町内会長さんも苦しいんですよ。あの町内会長さんは、どちらかというと防衛にそんなに反対する人じゃないんですよ。

でも、自分の町内のすぐ側、女性を含めて、子供さんがいるお母さん方、やっぱり、その学校に通うということは、非常に難しい。新屋のあの周辺の衰退に繋がるという。ですから、商業高校なんか困るんですよ。そこら辺を留意して。

(審議官)

基本的な施設の配置案の検討の中で、住民の心的負担の軽減の観点を含め、どの程度離せばいいのか、どういった作業工程が良いのか、その辺を含めてしっかり対応させていただきたいと思います。

(知 事)

小手先のことでは無くて、基本的に。  
今度の住民説明会は。

(審議官)

18、19日と2日間に渡って、勝平地区で住民説明会を・・・。

(知 事)

あれは、2回目か。

(審議官)

2回目と同じ内容で、やらせていただきました。

今後の住民説明会の具体的なスケジュールは決まっておりますけれども、少なくとも調査を現地で着手する前には、具体的な調査の内容やスケジュールなどについては説明する必要があると考えております。また、調査の実施状況とか調査結果についても適時適切に説明したいと考えておりますけれども、具体的な時期、やり方などについては、また県の方にもいろいろと相談させていただきながらやっていきたいと考えております。

(知 事)

最後になりますが、最初に政務官が「最適候補地」と説明したが、私は最適候補地ではないと思っている。最適候補地を、最適でなくても一定の候補地まで、そういう状況にするためには、基本的にどういう風な対応を取ればいいのかという基本線について、もう一回事務レベルプラス大臣レベルまで検討して、金のかけかた、あるいは、そもそもの考え方、他の国有地の調査結果、それによって使い方、こういうことを今からやっても、逆に言えばこのままズルズルと行くよりは、そっちの方が早い場合がありますよ。それは、十分大臣にお伝え願いたいと思います。

(審議官)

今後、各種調査をやらせていただいて、その結果を施設の基本的な配置案の検討に反映させていく訳ですけれども、その中で、住宅地とどれだけの保安距離がとれるのか、そういった地域の不安を軽減させていくのかななどを、併せて検討した上で、適地というのを判断するということでもありますし、また仮に不適との結論に至った場合には、他の候補地を見つけるということになります。その場合に備えて、他の国有地、他の省庁の管理する国有地についても検討を実施することについても、ご理解を賜りたいと思います。

(知 事)

保安距離、これがとれない場合、これは不適です。

この件は、私の方の考えと、一般の住民の方がそれで納得するかどうか。これは、いくら距離をとっても納得しない人はいます。ただ、一定の納得するような保安距離がとれなかったら、諦めてください。

(審議官)

そこは、しっかりと保安距離がとれるような検討をした上で、ご説明させていただいて、ご理解を賜るよう努力したいと思っております。

(知 事)

大臣に、ちゃんと伝えてください。

(審議官)

はい。本日は、いろいろとお忙しい中、こういった機会を頂きまして、改めて御礼申し上げます。今日いただいたご意見につきましても、真摯に受け止めさせていただきまして、今後、住民の方々のご懸念ですとか不安を、少しでも払拭できるように、引き続き丁寧に説明させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

以上